

### 1 松本城について

#### (1) 立地

- ① 複合扇状地：湿地帯
- ② 街道の要所：北国脇往還ほっこくわきおうかん（善光寺街道）、野麦街道、糸魚川街道いとがわ（千国街道ちくに）
- ③ 河川：女鳥羽川めとば、薄川すすき、田川たに囲まれている
- ④ 四神相応の地（北：山地、東：河川、南：低地、西：街道）

#### (2) 沿革

永正元年（1504）頃 小笠原氏の支城として深志城を築かれる  
 天文19年（1550） 武田晴信が深志城を占領し、鍛立てをする  
 天正10年（1582） 織田勢に武田氏敗退、機を見て小笠原貞慶が入城し松本城と改名する  
 天正18年（1590） 豊臣秀吉の世となり小笠原秀政を古河へ移封、代わって石川数正入封  
 文禄3～4年（1594）頃 石川数正、康長父子により天守が築かれる  
 寛永11年（1634）頃 松平直政により月見櫓、辰巳附櫓が併設される  
 （築城以来、石川、小笠原、戸田、松平、堀田、水野、戸田と6家23代に渡り城主が変わる）  
 明治4年（1871） 廃藩置県の結果、櫓や門などが取り壊される

※参考 「松本市史」松本市、「歴史のなかの松本城」松本市教育委員会

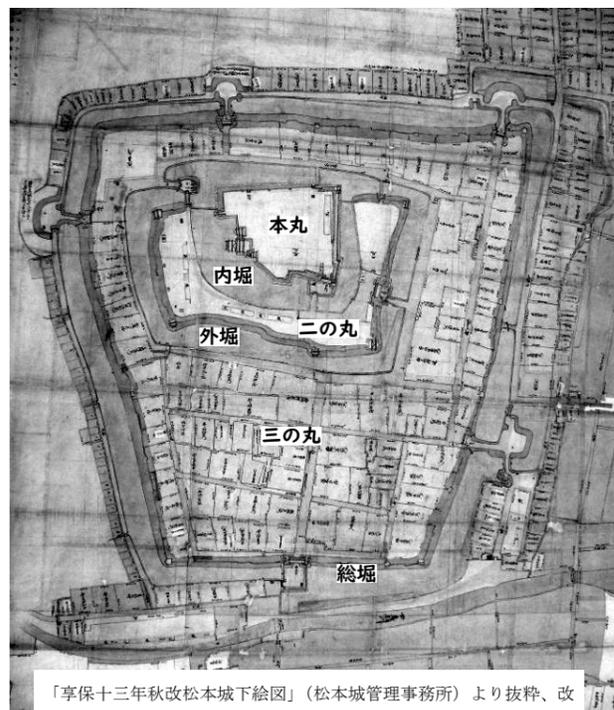
#### (3) 縄張り

梯郭式ていかくと輪郭式りんかくの組み合わせ

- ・ 梯郭式：本丸を城郭の片隅に配置し、周囲を他の曲輪で囲む。
- ・ 輪郭式：本丸を取り囲むように二の丸が配置され、さらに周りを別の曲輪が囲む。

#### (4) 国宝・史跡指定

- ① 本丸と二の丸の一部が昭和5年に国指定史跡
- ② 天守てんしゅ・乾小天守けんせんとんしゅ・渡櫓わたりやぐら・辰巳附櫓たつみつけやぐら・月見櫓つきみやぐらが昭和11年に国宝指定



「享保十三年秋改松本城下絵図」（松本城管理事務所）より抜粋、改

### 2 松本城の魅力

#### (1) 絶景

- ① 北アルプスが一望できる。
- ② 松本城周辺の建物に高さ制限を課している。  
 → 本丸から現代の建物がほぼ見えない。  
 → 松本城天守の存在感が保持できる。

#### (2) 現存する天守 現存12城の1つ

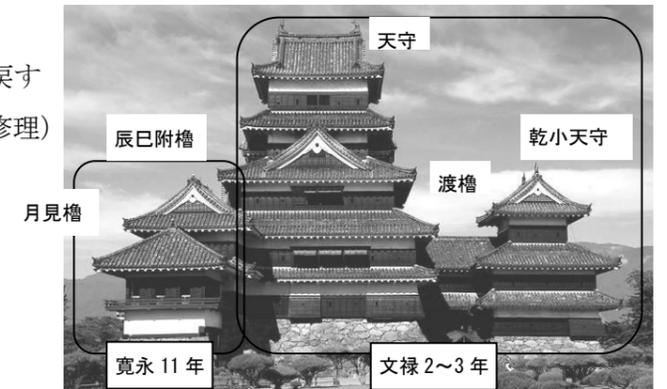
現存する唯一の平城、最古の五重六階

→近代以降、市民に守られてきた。

ex) 市川量造らにより払下げ天守を買い戻す  
 小林有也らにより、修理（明治の大修理）

#### (3) 2時期の建物で構成された天守

- ① 天守・乾小天守・渡櫓 → 文禄2～3年  
 ※ 実践に備えた造り
- ② 辰巳付櫓・月見 → 寛永11年  
 ※ 泰平の世を象徴した造り



松本城HPより

#### (4) 現代の維持管理

- ① 年1回の漆塗り ← 昭和の大修理時に漆塗りを発見し、同じ材料と同じ塗り方を踏襲。
- ② 床磨き ← 「国宝松本城」を守り伝えるために、年数回実施（一般向け、小学生向け）

#### ～駒つなぎの桜～

江戸からの帰り道に松本城を訪れ、時の城主石川玄蕃頭げんぼんのかみ（康長）より接待を受けます。帰り際に、玄蕃頭から「特に出来の良い駒（馬）2頭を用意したので、どちらか1頭を差し上げます」と伝えました。すると、清正は、「あなたほどの目利きが選んだ駒をどうして私が選ぶことができましようや」と言い、二頭を連れて帰りました。

一頭を良い馬として選べば一方は駄馬ということになり、また悪い馬を選べば清正は見る目が無かったと人々に笑われるかもしれません。二頭とも連れ帰ることでそれを避けることができ、これを聞いた人々は「さすが清正公」と大いに感心したということです

「續撰清正記」巻第六より要約

### 3 最近の松本城関連事

#### (1) 三の丸跡発掘ラッシュ

- ① 南・西外堀の復元事業

(ア) 南・西外堀は、大正8年頃～昭和初期に埋め立てられ、住宅が密集している。

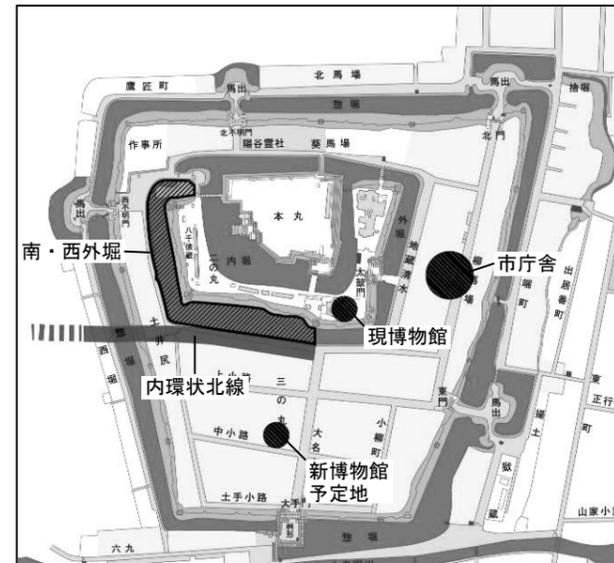
(イ) 復元を市の重要課題として、堀上の住宅移転が進められている。

(ウ) 平成 29 年度に、堀・土塁の位置を探るための確認調査が開始された。

② 内環状北線拡幅事業

(ア) 南外堀の南側の住宅移転が進められている。

(イ) 平成 26 年度以降、移転が終わった区画から発掘調査をしている。



「享保十三年秋改松本城下絵図の復元図」  
(株式会社精美堂、松本城管理事務所)より抜粋、改変

③ 市庁舎建替えと市立博物館の移転

(ア) 現在、庁舎がある場所は、三の丸内の家老級屋敷跡にあたる。同じ場所に建て変える予定。

(イ) 現在の市立博物館は、二の丸の古山寺御殿跡に位置する。老朽化等により三の丸に移転し、平成 34 年度に完成予定。

(2) 耐震対策

- ① 平成 26～28 年度に診断を実施。
- ② 安全対策の必要性が生じている (例：乾小天守の立入禁止、入場制限、安全対策の検討)

(3) 世界遺産推進登録事業

目的：「松本城をさまざまな脅威から保護、保存し、次世代へと継承するため、世界遺産登録をめざす」

しかし、課題は多い……。

- ・ 範囲を明確化する (城下町まで広げるかどうか)
- ・ 世界史的な位置付けを行い普遍的価値を明確化する
- ・ 松本城単体ではなく、他の国宝等との連携を検討する (歴史的連続性をもたせ、価値を増す) などなど。

(4) 平成の大修理？

昭和の大修理から 60 年以上経ち、平成 23 年の松本地震 (深度 5 強) を経験し、今後高い確率で大地震が予想されているため、大規模修理を考え始めないといけない時期にある。

松本城と熊本城の比較

	松本城	熊本城
文化財指定	国指定史跡 (昭和 11 年)	国指定史跡 (昭和 8 年) 国指定特別史跡 (昭和 30 年)
前身	ふかし 深志城 (築城：永正元年、1504 頃)	隈本城 (築城：天正 19 年、1591) ※加藤清正期
城主 (石高)	7 家 23 人 石川氏 (8 万石) 2 代 小笠原氏 (8 万石) 2 代 戸田氏 (7 万石) 2 代 松平氏 (7 万石) 1 代 堀田氏 (10 万石) 1 代 水野氏 (7 万石) 6 代 戸田氏 (6 万石) 9 代	2 家 13 人 加藤氏 (54 万石) 2 代 細川氏 (54 万石) 11 代
城郭の形態	平城・梯郭式+輪郭式	平山城・梯郭式
天守築城の開始時期	文禄 2～3 年 (天守・乾小天守・渡櫓) 寛永 11 年 (辰巳附櫓・月見櫓)	慶長 4～5 年 (大天守) 慶長 17 年 (小天守)
天守の構造	五重六階 層塔型 (望楼型の特徴も持つ) ・連結複合式	三重六階・地下 (穴蔵) 付き 望楼型・連結式
天守の高さ	約 25m	約 34m
天守台石垣の高さ	4. 4m (地面から) ～6. 2m (水面から)	約 12m
史跡面積	92, 889. 51 m <sup>2</sup> (約 9. 3ha)	約 51. 2ha
城域面積	約 34ha	約 98ha
国指定重要文化財数	0	13 棟 (宇土櫓、平櫓、不開門など)
堀の形状	水堀 (内堀、外堀、総堀)	空堀 (本丸空堀、西出丸空堀、薬研堀など) 水堀 (備前堀)
国宝	天守・乾小天守・渡櫓 ・辰巳附櫓・月見櫓	0
復元建物数	2 棟 黒門枳形二の門と袖堀 (平成 1・4 年) 太鼓門枳形 (平成 11 年)	14 棟 (大・小天守、本丸御殿、飯田丸五階櫓など)
石垣技術	野面積み、乱積み	古城＝野面積み、乱積み 新城 (加藤期) ＝打込接ぎ、布目崩し積み 新城 (細川期) ＝打込接ぎ、布積み
城下町	親町 3 町・枝町 13 町 (・24 小路)	新町区画 (6 懸り・22 丁)、古町区画 (4 懸り・40 丁)、京町区画 (4 懸り・6 丁)、坪井区画 (2 懸り・18 丁)
主要街道	北国脇往還 (善行寺街道) ・野麦街道 ・糸魚川街道 (千国街道)	豊前街道・豊後街道・薩摩街道・日向街道

参考 「松本市史」第 2 巻 歴史編Ⅱ 近世、松本市、 「歴史のなかの松本城」松本市教育委員会  
「新熊本市史」通史編 第 3 巻近世Ⅰ、熊本市、 「熊本城 歴史と魅力」富田絢一 熊本城顕彰会